

山口新聞

平成 24 年 12 月 7 日 (金)

NO. 34

農地・水・環境

守ろう地域の手で



34

ようになった。

この地域は三原郷と呼ばれる須佐の起源となる地で、中山間地に約100分の1の水田地帯が広がる。高齢集落では「花菖蒲」を植栽し、6月に見事な花を咲かせている。年ごとに花を見に来る人が増え、都市との交流にもつながっている。

「おい、おはよう」会社に勤めるQさんの朝のあいさつ。少し前まで、農家と非農家は「この人ぞ」とあいさつも交わさなかった。ところが、農地・水保全管理が始まったのを契機に農道の草刈りなどを集落一

三原の郷環境保全協議会(萩市)

「国の礎」担う若者来たれ

農村の高齢化が進む中、農地の維持や環境の保全に集落が一体となって頑張っている。農業はいつの時代も「国の礎」である。次の時代に向かって若者よ、来たれ!

(書記・会計、田村武司)

— 金曜日掲載 —



①会員の皆さん②花菖蒲園を造成し、6月に見事な花を咲かせた

【メモ】代表 村岡一志▽会員 191人、農家82戸、非農家109人、土地改良区、婦人組織、集落組織▽設立 2007年4月20日▽連絡先 萩市須佐3415、田村武司 ☎083387・6・3366